

中学校第1学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 筆者の説明の仕方を学ぼう
主教材名 日高 敏隆 「ハチドリ不思議」 (『新編 新しい国語 2』 東京書籍)
補助教材名 下中 邦彦編 『大百科事典』 1985年 平凡社

2 単元観

本単元は、「クイズ作り」を通して、言葉や表現にこだわりながら説明的文章を「読むこと」の力を付けるために設定した。クイズを作ることによって、生徒自身が、意欲的・主体的に教材文に立ち返るとともに、書かれている内容や表現の巧みさに気付くことをねらいとしている。

(1) 生徒観

本学級の生徒は、国語の授業に臨む態度が全体的に落ち着いており、まじめに学習に取り組む。また、手を挙げて意見を発表したり疑問点を質問したりするなど、積極的に授業に参加する生徒も多く見られる。事前の実態調査によると、約70%の生徒が「国語の授業に熱心に取り組んでいる」と答えている。その一方で、「小説や説明文などの文章を読むことが嫌い」という生徒は40%に達している。一部には、文章を細部にわたって読むことに抵抗を感じ、学習意欲をもてない生徒もいる。特に、難解な語句(専門用語や抽象的な言葉)が使用されることの多い説明的文章の学習にその傾向が強い。「読みとばし」や「読み落とし」も多く、一読しておおまかに内容が理解できると、教材の叙述を離れてしまう面もある。

領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」「書くこと」では標準的な力を備えているものの、「読むこと」や「言語事項」は標準を若干下回る。読書生活に関しては、約60%の生徒が「あまり本を読まない」と答えており、読書離れの姿がうかがえる。また、「本を読む」と答えた生徒でも、選んでいる本の種類は、『ダレン・シャン』や『ハリー・ポッター』など最近話題のファンタジー小説やネット小説に偏っており、表現の巧みさよりも、手軽に、感覚的に読める本を好む傾向にある。

説明的文章の学習においては、1学期に教材「脳の働きを目で見よう」(川島 隆太著 東京書籍1年教科書)で、文章の部分ごとの要点をまとめるという学習を行うことにより情報を読み取る力を付けた。しかし、書かれている内容をおおまかにつかむ段階で止まっており、言葉にこだわって読んだり、言葉の意味することを的確に理解したりする力はまだまだ不十分である。

クイズ作りに関しては、事前に「ガラパゴスの自然と生物」(伊藤 秀三著 光村図書小学校6年生教科書)を使って経験している。クイズを作る活動には非常に興味を示し、8割以上の生徒が「おもしろい」「またやってみたい」と答えた。また、「相手が一言では答えられないようなクイズを作ろう」という助言を与えたところ、表現の細部にこだわってクイズを考える生徒も見られるようになった。

(2) 教材観

生徒たちは未知の事柄を知ること到大変興味を示す。1学期に学んだ教材「脳のはたらきを目で見よう」では、脳の仕組みやはたらきに驚きや感動を覚え、関連したテレビ番組や本のことを話題にする姿も見られた。このような点から考えると、生きていること自体が不思議だと考えられるハチドリが生き続けている謎について書かれた本教材は、生徒たちにとって興味のある内容であると言える。

本教材は11の形式段落からなる短い説明的文章である。全体は「ハチドリのような小さな鳥が生

きていられるはずがないのはなぜか」(第2段落),「ハチドリがちゃんと生きているのはなぜか」(第6段落),「ハチドリは東京や大阪なら生きてゆけるだろうか」(第9段落)の3つが中心となる問題提示(問い)になっている。その問題提示に続けて答えを述べるという形で論が展開されている。因果関係が分かりやすく比較的容易に内容を理解できるだろう。ただし,本教材は多くの説明的文章に見られるような序論・本論・結論という構成とは若干異質のようである。それは,元来この文章が『人間についての寓話』(1994年 平凡社)という書物の「人類についての覚書」の一節であり,教材文自体が「人類は滅びるか」という筆者の問いに対する本論的役割を果たしているためだと思われる。

この教材の魅力は,内容が生徒の興味を引くものであることに加えて筆者の用語のユニークさにあると言える。特にハチドリの生態を経済用語(「経営状態」「収入」「支出」「収支決算」「自転車操業」「倒産」)で説明している点はその最たるものだろう。淡々と事実を述べるのではなく,所々に散りばめられたユニークな用語が,読み手を引きつけるとともに,読み手を意識した“筆者の思い”までを感じ取ることができる。加えて,数箇所用いられている文末表現(「～ちがいない」「～かもしれない」「～はず」など)からも“筆者の意見”をくみ取ることができるだろう。一方で理学的用語(「恒温動物」「変温動物」「体温」「外気」「体表」「遺伝的能力」等)が多く使われているため,内容を理解する上で抵抗となることが予想される。

この「ハチドリの不思議」では,生物と環境の問題を取り上げることで,人間と環境とのかかわりを読者に考えさせようとする筆者の意図が感じられる。もちろん,出典の『人間としての寓話』では,直接的に「人類は滅びるか」という問いかけがなされているが,教科書に取り上げられた教材文だけでも,人間と環境の問題に思いをはせることができる。ハチドリに関する他の文献ではその飛行法や捕食法を主な特徴として取り上げている。しかし,本教材ではそれらの特徴にはほとんど触れることなく,遺伝的能力と環境との密接なつながりを話題の中心としている点は注目すべきであろう。

(3) 指導観

本単元では,まず,言葉や表現の細部にこだわりながら内容を正確に理解する力を付けたいと考える。指導に当たっては,生徒が意欲的・主体的に文章と向き合い,生徒自らが気付くということに重点を置きたい。

そこで,本単元ではクイズ作りを取り入れることにした。クラスメートを対象にクイズを作るという活動は,活動そのものもつ楽しさから,生徒の意欲的な活動が期待できる。また,問題作りの必要性から生徒自らが教材文に立ち返る場が増えることが予想される。加えて,クイズを作るとは同時に答えを考えることにもつながっており,クイズを作ること自体が,内容把握や表現の巧みさに対して生徒の気付きを促すことになるだろう。

クイズ作りには,最初は自由に作らせて内容理解の一助とするが,徐々にその問いかけのレベルを上げていくようにさせたい。特に,相手が「はい」「いいえ」などの一言では答えられないような問いかけ,文章をよく読んでいないと答えられないような問いかけを大事にさせたい。そのことが,表現の巧みさや問題提起文の役割に気付いていくことにつながると考えられる。このように,生徒が作ったクイズを基に,筆者独特のユニークな表現や文章構成を学んでいくような授業にしたいと考え,本単元を組み立てた。

また,単元の終末には,百科事典の記述と教材文とを比較させることで,表現の工夫や筆者の意図を考えさせる。文章の内容だけではなく,その向こうにある書き手の存在を意識させたいと考えた。さらに,読み手を意識して書くことの大切さにも気付かせ,生徒が自分自身の表現活動に役立つ契機としたい。

3 単元の指導目標

- ・ 言葉や表現にこだわりながら文章を読ませるとともに、筆者の表現の工夫や意図をとらえさせる。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲 ・態度	ア 説明的文章を読むことに対して意欲をもつとともに、クイズ作りの学習活動に積極的に取り組んでいる。
読む能力	イ 文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、語句を選んだ筆者の意図を考えている。 ウ 問題提起と答えを照応し、文章の構成や展開をつかんでいる。
言語についての知識 ・理解・技能	エ 筆者独特の語句の使い方に気付き、辞書的な意味との違いを理解している。

5 単元計画（全5時間）

時	学習活動	指導・支援	評価とその方法
1	<p>題名から内容を想像する。</p> <p>全文を通読し、初読の感想を発表し合うとともに、内容をおおまかにつかむ。</p>	<p>ハチドリについて知っていることを発表させる。また、珍しい動物を紹介する時に必要な項目を考えさせる。〔体の大きさや形・体の色・種属・生息地・食べ物・生態など〕</p> <p>初読の感想を出し合いながら内容のあらまし〔3葉・花のみつ・飛びながら・温血動物・冷血動物・冬眠・中南米など〕をつかませる。</p> <p>本文の内容を文章中の一語でまとめることにより、内容を確認させる。</p>	<p>ア 話題や題材に興味をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。【発言・観察】</p> <p>ア 話題をとらえ、初読の感想を書くことができる。【ワークシート、観察、発表】</p>
2	<p>初読の感想を基に、クイズを考える。</p> <p>ペアでクイズを出し合い、クイズを吟味する。</p> <p>再度、クイズを考える。</p> <p>班でクイズを出し合い、クイズを吟味する。</p>	<p>5～8問のクイズを作らせた後、相手が出してきそうなクイズを1問付け加えさせる。</p> <p>相手が答えられなかったクイズを発表させ、クイズの難易度を考えさせる。</p> <p>相手が答えに窮するような「とっておきのクイズ」を2～3問考えさせる。</p> <p>作業に戸惑っている生徒には、問いの視点をアドバイスする。</p> <p>各班で特に難しい1～2問のクイズに絞らせることでクイズの質を意識させる。</p>	<p>ア 意欲的にクイズ作りに取り組んでいる。【ワークシート、観察】</p> <p>イエ 文章の細部にこだわりながらクイズを作ったり吟味したりしている。【ワークシート、観察】</p> <p>ア 意欲的にクイズを吟味している。【観察】</p>

<p>3</p> <p>本 時</p>	<p>前時のクイズを分類する。</p> <p>表現に関するクイズを考え、発表する。</p> <p>クイズの答えを考える。</p> <p>筆者の用語の特徴をとらえるとともに、筆者の意図を考える。</p>	<p>各班のクイズを提示することで、内容に関するもの、表現に関するものがあることに気付かせる。</p> <p>筆者独特の表現〔自転車操業・倒産・断食・冬眠・おとぎ話などの語句の使い方〕に注目させるために、初読の感想プリントに書いた“気になる語句”を振り返らせる。</p> <p>出されたクイズの答えをワークシートに書き込むことで、文脈の中での意味を理解させ、筆者独特の表現に気付かせる。</p> <p>筆者の視点に立たせることで、比喩表現の巧みさとともに読者への配慮について考えさせる。</p>	<p>イエ 文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、クイズ作りや解答作りをしている。</p> <p>【ワークシート】</p> <p>イ 筆者が語句を選んだ意図を表現の効果に触れながら書いている。</p> <p>【ワークシート】</p>
<p>4</p>	<p>内容に関するクイズを比較する。</p> <p>文章の構成をつかむ。</p> <p>筆者の問題提起に対する答えを考える。</p>	<p>クイズの問いかけ方の違い〔なぜ～、どうして～〕によって、難易度に差が出ることに着目させることで、文章中の問題提起の重要性を考えさせる。</p> <p>三つの問題提起とその答えを対応させることで、文章の構成をつかませる。</p> <p>答えを導きやすい問題提起から取り組ませることで抵抗感を少なくする。</p>	<p>ウ 問題提起と答えを照応し、文章の構成や展開を理解している。</p> <p>【ワークシート】</p>
<p>5</p>	<p>筆者の意図や表現の工夫を考える。</p> <p>学習を振り返らせる。</p>	<p>百科事典と本文とを比較させ、違いに気付かせる。(用語・文末表現など)</p> <p>百科事典と本文との内容を比較させ、八チドリの代謝と生息地にしか触れていないことを手がかりにさせながら、文章中から話題の中心となる言葉を探させる。</p> <p>本教材文の学習を通して学んだこと・身に付けたことを振り返ることで、学習の進め方を意識させる。</p>	<p>エ 比較して分かった表現の仕方の特徴についての気付きを書いている。</p> <p>【ワークシート】</p> <p>イ 人間の置かれた立場についての筆者の意見を踏まえながら、筆者の表現の意図について書いている。</p> <p>【ワークシート 観察】</p> <p>ア 意欲的に感想を書いている。</p> <p>【ワークシート 観察】</p>

6 本時の学習

(1) 目標

ア クイズ(表現編)作りの学習活動に積極的に取り組むようにさせる。

イ 「自転車操業」「倒産」「収支決算」などの経済に関する語句が、文脈の中においてどのような意味で用いられているか正確にとらえさせ、このような語句を選んだ筆者の意図を理解させる。

エ 筆者独特の語句の使い方と、辞書的な意味との違いについて理解させる。

(2) 展開(3/6時)

過程	学 習 活 動	指 導 と * 評 価
導 入	1 クイズを分類する。	前時に各班で作ったクイズを提示し、内容に関するものと表現に関するものとに分類させることで、文章の表現の特徴を意識させる。 *クイズの問いかけを根拠に、クイズのタイプを考えて発言している。
	2 本時の目標を知る。	語句の使い方のおもしろさに着目したクイズに注目させることによって、表現(言葉)に関するクイズを作ることを確認させる。
ハチドリクイズ(表現編)を作ろう!		
展 開	3 例題を基に、クイズを作る。	クイズ例を提示することで、問いかけ方を確認させる。〔～とはここではどういう意味でしょう?〕 辞書の意味とは異なって用いられている筆者独特の表現の例を挙げ、ほかにも同じようなものを探させて、クイズを作らせる。 初読の感想プリントや前時のワークシートを振り返らせることで、独特の使われ方をしている語句を見付けさせる。 *巧みな比喻表現に気づき、意欲的にクイズを作っている。
	4 クイズの答えを考える。	数名の生徒に作ったクイズを発表させ、その答えを本文中の言葉を使ってワークシートに記入させることで、筆者独特の表現と一般的な表現を比較させる。 友人との相談の時間を設けたり、答えを数名の生徒に発表させたりすることで、他の生徒の作品を参考にさせる。 *文脈の中での語句の意味をとらえ、文章中の言葉を用いて、クイズの答えを書いている。
	5 取り上げられた表現を整理し、筆者の意図を考える。	詩の授業を想起させることで、比喻表現(たとえ)について確認させる。 筆者になったつもりでワークシートに記入させることで、比喻表現を多用した筆者の意図を考えさせる。 作業に戸惑っている生徒には、書き出し〔私が比喻表現をたくさん使ったのは、～〕を示す。 *筆者が語句を選んだ意図について、表現の効果に触れながら

		書いている。
終 末	6 次時の学習を見通す。	本時導入段階でのクイズの分類を振り返らせることで、次時は内容に関するクイズについて学習することを確認させる。